

環境省による漂流・漂着ごみ問題に関する主な調査等

平成 23 年 3 月
環 境 省

I 平成 22 年度の主な調査

○漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査

漂流・漂着ごみの被害が著しいモデル地域を対象に詳細な調査を実施し、漂流・漂着ごみの量・質等の実態を把握するとともに、地域の関係者による検討会を開催し、地域の実情に応じた効率的かつ効果的な回収・処理方法や今後の対策のあり方の検討を行う。特に、平成 21 年度から平成 22 年度の第 2 期調査においては、地域特性に応じた効果的な海岸清掃のマニュアルを策定中。

○漂着ごみ状況把握調査

漂着ごみの全国的な状況を把握するため、全国の関係主体による清掃活動や GND 基金、環境省事業等の結果を活用して、全国の平均現存量、回収量等の分布状況や経年変化等を推計する。また、複数観測点においてモニタリング調査を実施し、季節毎の漂着フラックスを推定する。

○漂流・漂着ごみ原因究明・国外流出調査

典型的な地域における主要漂着ごみ（漁網、流木、生活系ごみ）を対象に発生実態や流出状況等を追跡調査し、発生原因の究明及び対策の検討を行った。

また、我が国から流出するごみの状況把握を、数値シミュレーションを用いて調査を行った。その結果、これまでに事例報告があったハワイ諸島やミッドウェー島に加え、フィリピン島等においても、我が国の漂着物が漂着している可能性が確認された。

○海岸漂着物処理推進調査

都道府県の区域間の海岸漂着物の流出状況に関する調査・検討、地域において極めて処理が困難な海岸漂着物の処理に関する調査・検討など法の施行に必要な調査・検討を、ヒアリング・文献調査等により行っているところ。

II その他の国際的な取組

○ 多国間協力

日本、中国、韓国、ロシアによる北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）の枠組において、外務省と連携し、普及啓発キャンペーンや、各国の取組

を共有するためのワークショップを開催。平成 22 年度は 10 月に韓国済州島において開催。

また、日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM）において、漂流・漂着ごみの問題を取り上げ、三カ国で更なる協力が必要との認識を共有。平成 22 年 5 月の第 12 回 TEMM において、NOWPAP の枠組を通じた漂流・漂着ごみの発生源対策への協力強化に合意し、同取組を含む三カ国共同行動計画を採択。同月に開催された日中韓サミットにおいても、今後 10 年間の協力の方向性を示す「日中韓三国間協力ビジョン 2020」において、NOWPAP の下の海洋ごみに関する取組の重要性が認識されたところ。

○ 二国間協力

海外から廃ポリタンクや医療系廃棄物などの大量漂着が認められた場合、関係地方公共団体等と連携して漂着状況の把握を行い、外務省と連携し、関係国に対して原因究明及び対策実施を要請。

平成 22 年度は、医療系廃棄物の大量漂着が確認されたため、関係地方公共団体に注意喚起を行うとともに、外務省に関係国への調査照会の依頼を行ったところ。また、廃ポリタンクについても漂着が確認されたことから、関係地方公共団体等と連携して地域住民への注意喚起及び漂着状況の把握を行い、第一報として調査結果をとりまとめた。